The Shinshu University Museum of Natural Science

信州大学自然科学館　Newsletter　創刊号　2012.8.4

信州大学自然科学館８月４日(土)オープン！

信州大学自然科学館開館にあたって

この度、信州大学の松本キャンパスに「信州大学自然科学館」を開館でき、大変嬉しく思います。長期間にわたって準備を進めてこられました関係者及び多大なるご支援を賜りました皆様に、改めて感謝申し上げます。

自然科学、特に生物学や地質学の分野にとって、実物に触れることはまさに「百聞は一見に如かず」であり、信州大学理学部はこれまでにも折に触れて動植物の標本や化石等を学内外に公開してまいりました。理学部が保存している資料には、旧制の松本高校や松本女子師範学校時代の植物標本も含まれ、信州大学の歴史の証人と考えれば、自然科学を越えた価値が見出せます。既に絶滅した動植物の標本などは、信州大学が一丸となって推進している「環境マインド」にも一役買ってくれるのではないでしょうか？
自然科学館が常設の市民公開施設として整備されたことで、信州大学が保存する貴重な資料を、学生への教育研究のみならず、地域の皆様にも大いに役立てていただけるようになりました。展示されている資料からのメッセージを受け止め、自然豊かな安全で安心な社会を築いていくことで、資料たちを将来に受け継いでいくことができれば望外の喜びです。自然科学館が大いに活用され、一層発展していくことを期待しております。

信州大学長　山沢清人

信州大学理学部が保存・管理している植物標本の主体は、著名な『長野県植物誌』の証拠標本として現在も国際的に機能している信州大学が世界に誇るべき文化遺産です。これらの貴重な資料の保管場所に苦慮し、これまでは医学部のご好意に甘えて赤レンガ資料室（旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫）をお借りしておりましたが、この度『信州大学自然科学館』とし新たな一歩を踏み出すことができ大変うれしく思います。信州大学自然科学館が、旧制松本高等学校や松本女子師範学校時代から引き継がれた貴重な資料の展示とデーターベース化、小中高校生・市民向け体験学習事業の実施等教育研究活動への貢献を目指し、さらなる充実と発展できることを期待します。

理学部長　武田三男

信州大学自然科学館は、学術資料保管・信州アーカイブ・資料展示・生命系再創生をめざして発足しました。この記念すべき「信州大学自然科学館」オープンに際し、信州大学学長はじめ諸役員の皆様のご協力、日本各地から励ましの声を頂きました。さらに、養老孟司先生（東京大学名誉教授）をお迎えし、特別講演「むし・信州・わたしの壁」を賜る運びとなりました。深く感謝いたします。

30 年前に建設された環境センター（旧廃液処理センター）を譲り受け、蓄積資料保管および常設展示を一般公開できることとなりました。

おそらく今ここは、日本一小さな科学館として日本一著名な「自然愛のひと」の言葉をいただく稀有な奇跡の時空点と言えましょう。この極端なギャップをエネルギーにかえて、東アジアを代表できる信州の自然をみつめ・さぐり・迷いながら繋いでいく自然科学館へと発展させたいものです。

初代館長　佐藤利幸

・・・・・・・・・利用案内・・・・・・・・・

入 場 料　無料

開館時間

閲覧・観覧希望の方は、事前に理学部総務グループまでご連絡ください。日時を決めた上で対応いたします。

連絡先 Tel：0263-37-2435　fax:0263-37-2438

信州大学自然科学館の設立まで

佐藤　利幸

信州大学植物標本（SHIN）

信州大学自然科学館のこれまでの歩みは、45 年前、信州大学教養部生物学教室（清水建美名誉教授）を中心とした長野県植物研究会の発足とともに始まります。信州は、日本にある約 10000 種の維管束植物（在来・帰化を含む）のうち約半数　5000 種が確認されており、日本列島の植物多様性の柱といえる稀有な地域です。長野県植物研究会では、旧制松本高等学校や長野県松本女子師範学校からの植物標本をもとに、30 万点の植物標本の整理が会員のボランティアによって行われました。それらは、「信州大学植物標本（SHIN)」として 20 年も前に国際登録され、1997 年には研究会創立 30 周年事業の一環として、植物標本内容とその分布図を紹介する「長野県植物誌（CD-ROM　金井ら)」として編纂されました。この「長野県植物誌」は、信濃毎日新聞社賞を受賞しました。

ライチョウ剥製

動物標本においては、旧制松本高等学校・松本女子師範学校から引き継がれた生物教材、高等学校から寄贈された剥製教材などが信州大学に保管されてきました。ライチョウ剥製は、「雷鳥」　矢沢米三郎著　岩波書店発行の口絵写真や図版の元となったものです。多くのものが、明治末から昭和の初期に北アルプス山麓で採取されたものです。これらの剥製は、季節に伴う換羽状況がわかるもの、成体の骨格標本や千島産の本剥製は他に類がないもので、大変に貴重であると考えられます。

その他にも、信州大学理学部の教員と学生により、発見された化石やミエ（シンシュウ）ゾウのレプリカ、岩石標本や、信州大学文理学部から使われてきた化学教育を支えた計測装置なども収蔵・展示しております。これらの貴重な標本などの資料は値段が付けられない（priceless）ものばかりです。

シンシュウゾウ
(*Stegodon shinshuensis*) の頭骨化石

有機色素標本

理学部での研究や教育科目の一端を小中学生と父兄に公開する企画として、2000 年から信州自然誌科学館「自然シリーズ」を継続開催しており、同時に自然誌科学館準備委員会が発足しました。また、「環境マインドをもつ人材の養成」の一環として 2007 年度から「自然環境診断マイスター養成」プログラム活動を開始しました。学生はもちろんのこと、環境教育・行政・事業に関わる現役教職員、大学または専門学校を卒業した社会人を対象に、自然環境教育・行政・事業に対し具体案を提言できる「自然環境診断マイスター」を授与しており、修了生は、社会的活動とその成果の発信に活躍しております。また、自然科学館設立の準備として 7 年間大学博物館等協議会主導の博物科学会での発表参加を継続してまいりました。

今後は、各キャンパスに分散している貴重資料の展示、データーベース化と公開、小中高校生・市民向け体験学習事業の実施等教育研究活動への協力、加えて、図書館、関係する学部・全学教育機構等部局や学内共同教育研究施設さらには長野県ならびに周辺市町村などの地方自治体の協力を得て、環境保全、中山間地や里山の自然と文化、自然災害と防災など自然と人間生活が深く関わった文理融合分野の全学の教育研究とその情報公開にも役立てたいと考えています。

本格的な展示設備は未整備ですが、松本キャンパスでささやかな展示を行っております。どうぞお気軽に足をお運び下さい。

信州大学自然科学館がめざすもの

●●● 編集後記 ●●●

この場所との出会いは学生時代。実験設備が足りずに急遽実習先となった学生時代の最初の実習場所でした。時代とともに活用されなくなったこの場所は、2 年前から大型設備を撤去と整備が始まりました。開館 1 ヶ月前展示室はガラクタを集めたおもちゃ箱の様。・・なんとか開館にこぎつけました。未整備なところもありますが、信州大学自然科学館はこれからさらに進化していきます！　皆様の温かいご支援どうぞよろしくお願いいたします。（し）

信州大学自然科学館ニュースレター（創刊号）
発行日：2012.8.4
編集・発行：信州大学自然科学館運営委員会
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1(信州大学理学部内)
TEL: 0263-37-2435　FAX: 0263-37-2438
http://science.shinshu-u.ac.jp/~museum/
E-mail: museum@shinshu-u.ac.jp